

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人よこはま地域福祉研究センター

②施設・事業所情報

名称：スターチャイルド《矢向ナーサリー》	種別：認可保育所
代表者氏名：佐治 則子	定員（利用人数）： 50名（48名）
所在地：横浜市鶴見区矢向6-12-1	
TEL：045-571-2345	ホームページ： https://www.starchild.jp/nursery/yakou/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 平成28年（2016年）4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：ヒューマンスターチャイルド株式会社	
職員数	常勤職員： 13名 非常勤職員 7名
専門職員	（専門職の名称）施設長 1名 保育士 15名
	栄養士 1名 調理員 2名
	事務 1名
施設・設備の概要	（居室数） 6室 （設備等）
	給食室、事務室・医務室、沐浴室、エレベーター、乳児・幼児トイレ、多目的トイレ、休憩・更衣室、テラスなど

③理念・基本方針

【保育理念】

わたしたちは、子どもたちの無限の可能性を信じ、意欲を引き出し、伸ばす保育を実践します。

【保育方針】

- ・良く考え心身ともにたくましい子（子どもたちの自立と挑戦を支援します）
- ・個性の豊かな子（個性を尊重し、長所を伸ばします）
- ・やさしさと思いやりのある子（社会＝人と関わる力を身につけます）

④施設・事業所の特徴的な取組

- ・基本的な生活習慣において適切に援助しながらも、見守り、自分で考え、自分で行動できるよう支援します。
- ・できないことをやろうとする気持ちや、未知の体験に対する興味・好奇心が大きく育つよう保育者に働きかけます。
- ・人は一人一人違うから意味があります。お互いに個を尊重しあってこそ、素晴らしい人間関係が育ちます。
- ・子どもたちの得意なこと、好きなこと＝長所を見つけ、伸ばし、広く明るい心を持った子どもに育てます。
- ・遊びや体験を積み重ね、お互いの思いやり、協調性、忍耐力などの社会性が身についた子どもに育てます。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2023年 5月 2日（契約日） ～ 2023年11月7日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1 回（ 2018 年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

◆言葉を大切に対話する保育の中で、子どもたちは自信を持って活動しています

園は、子どもと対話する保育を大切にしています。施設長は、集団の中で個々の子どもの姿を捉えることが大事と職員に伝えています。また、子どもの言葉や発見を大切にした保育の中で、職員は、表現の苦手な子どもの気持ちを汲み取り、状況を把握して気持ちを代弁して援助しています。乳児には、「そっちに行きたいの？」と子どもの意思を確認しています。幼児クラスは、サークルトーク（輪になって話す）を繰り返し実施することで自分の気持ちを言えるようになり、友だちの気持ちも知るようになります。行事やお店屋さんごっこなどの取組前には、サークルトークで出た意見を活動に反映しています。更に、5歳児はイラストを見て、どんな気持ちなのか、楽しい・嬉しい・悲しい・悔しい等の8個の表情のカードから選び、人によって感じ方が違い、相手の気持ちを知り、どんな言葉かけをしたら良いか学んでいます。また、SDGsの話聞き、子どもたちが、自分たちで出来ることは何かと話し合って目標を決めています。この様に、一人ひとりの子どもを大切に、せかすことなく、その子どもに合った保育を実施する中で子どもたちは自信を持って笑顔で活動しています。職員も職員が笑顔でいることで子どもも楽しくなると考え、取り組んでいます。

◆施設長と主任は、職員が自ら考え、行動できるよう取り組んでいます

園は、「職員間の連携・協力体制の強化」を挙げ、職員自身が自分たちで協力し、問題解決できるよう会議で話し合うよう努めています。施設長と主任は、職員が自分たちで課題を見つけて、職員主体で問題点を話し合い、解決策を見つけることが資質向上に必要と考えています。また、フロアリーダーを中心にフロア内で解決するよう導いています。園の自己評価では、年齢や経験を基にグループに分け、課題を話し合っています。施設長と主任は毎日、保育室を巡回して観察し、保育日誌等から保育の状況を分析して評価して職員が自ら考え、職員間で話し合うことを重視しています。

◆園独自の計画を作成し、資質向上を目指しています

園は、一人3回の法人研修と年1項目のキャリアアップ研修の受講を目標に研修への参加を薦めています。その他、園内研修では年間計画を基に毎月、フロア環境の見直し、おんぶのやり方と注意点、ケース会議、ヒヤリハットの定義と書き方、人権擁護のためのセルフチェックなどを実施して保育に活かしています。また、職場改善をテーマにした園内研修も毎月行い、働きやすい職場を目指しています。更に、コロナ禍後、活動が途絶えていた地域支援ですが、今年度は地域支援年間計画を作成し、毎月七夕、水遊び、ベビーマッサージ、育児相談、ハロウィン集会などをテーマとして参加者を募っています。この様に、園は独自に作成した計画で職場環境を整え、資質向上を目指して、職員も子どもも笑顔で楽しく過ごせる園づくりを目指しています。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回第三者評価の受審にあたり、最初は第三者評価とは何かという受審の意義からのスタートでした。一つ一つの項目に合わせ自分たちの行動のどれがそれにあたるのか一人ひとりが振り返りを行い、その後グループを作り話し合いを行いました。「自分たちの強みは何だろう」「課題は何か」「課題を改善するためにはどのようにした

らよいのか」どんな方法があるか考え実践することで次の結果が見えてきました。

第三者評価を終えて感じたことは、話し合う事の大切さです。今年度の職員目標の『わを大切に！』は子どもたちの感動の「わー！」喜びの「わー！」を大切に。の気持ちと職員の協力の「わ」が含まれています。受審のため、自分たちの保育を振り返り話し合うことで、よりお互いの保育を知り、矢向ナーサリーの保育について考える機会になりました。

今回の結果を踏まえ、自分たちの保育を振り返る機会を与えていただいたことに感謝し、今後もさらに保育内容の充実を図り、『子どもの笑顔があふれる保育園』『地域に根差した保育園』となっていけるよう、スターチャイルド《矢向ナーサリー》らしさを追及していきます。

お忙しい中、利用者アンケートにお答えしていただいた保護者の皆様には、心より感謝申し上げます。

⑧第三者評価結果
別紙2のとおり